

平成 1 7 年 3 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 0428-23-6859）

暖冬と暖地性蝶類の北上＜ ＞

第 1 4 7 号（平成 1 2 年 1 月発行）で、「暖冬と暖地性蝶類の北上」と題し、暖冬の影響で暖地性蝶類の一部が分布を北に広げていて、青梅市でもこれまでいなかった蝶が見られるようになったことについて指摘しました。それから 5 年、その傾向が一層進んでいるので、パート として書いてみることにしました。

前号では、青梅市で初記録となるクロコノマチョウというジャノメチョウ科の蝶が、1 9 9 9 年に小曽木で採集されたことを書きました。ところが、発行後の 2 0 0 0 年の秋には、同地で 1 0 頭近いクロコノマチョウが採集または目撃され、ススキ及びツルヨシからは幼虫や蛹が採集されるに至りました。この年、小曽木でクロコノマチョウが発生したことは確かで、場合によると前年飛来または発生した個体が越冬できて翌年の発生につながったのかも知れません。残念ながら 2 0 0 1 年以降は、同地でクロコノマチョウは確認されていないので、一時的な発生にとどまったと思われます。

昨年（2 0 0 4 年）には、友田町一丁目でこの蝶を 1 頭目撃しました。次から次へと新しい個体が南から飛んで来ているようです。クロヒカゲやヒカゲチョウなどのジャノメチョウよりもはるかに大型なので、慣れれば飛んでいるのを見ても区別ができます。注意してみてください。

同じく前号で、ツマグロヒョウモンという暖地性のヒョウモンチョウが北上を続けていて、「近々青梅市まで飛んで来るかも知れない。」と書きましたが、早速飛んで来ました。畑中在住の伊藤利雄氏が 2 0 0 1 年に畑のブッドレアの花に来たこの蝶を 1 頭目撃しています。最近、都内各地でこの蝶の目撃記録が増えていますので、青梅市でも第 2、第 3 の記録が出てくるのが期待されます。ツマグロヒョウモンはスミレ類を食草としていて、山梨県の富士川水系を北上した際には、食草としてアメリカスミレサイシンを利用したことが確認されています。栽培種のスミレ類もよく食べ、パンジーやニオイスミレも食草の一つとなっています。タチツボスミレはあまり好まないようです。庭のパンジーやニオイスミレの葉がばりばりかじられていて、背中に突起

のある虫がいたら、この蝶の幼虫かもしれません。成虫は好んで花に集まるので目にする機会もあるかも知れません。

前号で予想もしなかった蝶にムラサキツバメというシジミチョウがいます。ムラサキシジミに似ていますが、はるかに大型で後ろばねに尾状突起があることで区別できます。従来は九州・四国・紀伊半島南部までが主な生息地で、成虫で越冬します。最近になって一気に関東地方で分布を広げた蝶です。食樹はマテバシイで、新しくできた公園や街路樹として植えられることが多く、移植された木と一緒に持ち込まれたと推定されています。東京都では最初に発見されたのは2000年(千代田区)。2001年、ひょっとしたらと思って調査したら、西多摩でも各地で発見されることとなった蝶です。この年、青梅市では新町でマテバシイから幼虫が発見されています。その後、今井、今寺、大門でも発見されています。青梅市ではまだ越冬できないようで、秋にならないと見られません。この点では、房総半島南部で幼虫越冬し、暖かくなると世代を繰り返しながら北上し、秋には青梅市でもダイズやアズキを栽培している地域では普通に見られるものの、冬の寒さには耐え切れずに滅びてしまったにもかかわらず、毎年これを繰り返しているウラナミシジミと同じ生活史をしています。

三浦半島や房総半島では越冬可能になったようで、ここで発生した個体が夏から秋にかけて青梅市に飛来し、卵を産んで秋には成虫が発生します。羽化した成虫は越冬体制に入るものの、青梅の冬の寒さには適応できず、翌春まで生き残る個体はないのが現状でしょう。しかし、こうしたことを繰り返しながら、次第に耐寒性を獲得しながら北上を続けていると見るべきなのでしょう。

さて、次には何が来るか。ナガサキアゲハという大型のアゲハチョウの分布域が北上していて、既に都内では目撃記録が出始めています。青梅市で発見されるのも時間の問題でしょう。いつ最初の発見記録が出るか興味津々というところです。

暖冬の年が続く中で、昆虫の世界では大きな変化が起きています。気候条件の変化に対する受動的な対応だけではなく、自ら耐寒性を獲得するなどチャレンジが繰り返されています。化石燃料という玉手箱を開け、大気中のCO₂濃度を増やしてしまったホモサピエンス(人類)という種は、自らが変えてしまった地球環境の変化に対応していけるのでしょうか。

(文責 久保田繁男)